

お口爽やかですか

テーマ 秋田県で白井記念歯科保健功労賞を創設

脱線事故死・白井さん 「記念歯科保健功労賞」で秋田県3団体受賞

皆さんは、昨年暮れに起きたJR羽越線の特急「いなほ14号」脱線・転覆事故で亡くなられた、秋田県職員歯科医師・白井和弘さん（当時34歳）を記憶しているだろうか。

2003年9月に、厚生労働省から秋田県庁に着任した白井さんは、全国最悪レベルだった秋田県内の子供たちのむし歯罹患（り）率を改善しようと、04年度から秋田県の「お口ブクブク大作戦」の中心となり、むし歯予防に効果があるフッ素洗口の普及に力を入れた。しかし、志半ばで不慮の事故で若い命を絶たれたのである。

最近、彼の功績を後世に伝えるため、「白井記念歯科保健功労賞」を秋田県が創設した。その第1回受賞

3団体が決まり、11月8日に秋田市内で開かれる第6回秋田県歯科保健大会で表彰される。受賞したのは、白井さんが普及に力を入れた「フッ素洗口」に、特に早くから取り組んだ秋田県東成瀬村と、由利本荘市立笹子小学校、横手市の明照保育園。

「お口ブクブク大作戦」 フッ素洗口の普及で むし歯減少

フッ素洗口指導のため、市町村などを訪ね一生懸命に説明する白井さんの姿に、村の学校でのフッ素洗口は定着しつつあるといい、歯科検診を行う地元歯科医からも「むし歯が少なくなつた」との声が寄せられているという。

笹子小学校には、白井さ

んが熱心にフッ素洗口のむし歯予防効果を説き、足を運んだ。同小の6年生がむし歯になった本数は、93年度の7・9本から、05年度には0・56本に激減した。

「お口ブクブク大作戦」は、07年度以降も市町村が事業として継続したり、新たに取り組みだりできるよう、白井さんの後任職員らが県内を歩き、訴えているという。

当初は消極的だった市町村の中にも、フッ素洗口にかけた生前の白井さんの熱意を知って、実施を検討する自治体も出てきている。事故から10カ月余。秋田県内を奔走した白井さんの遺志を継ごうと、フッ素洗口の輪はじわじわと広がっている。

秋田県内でフッ素洗口を

実施しているのは、幼稚園と保育園だけで88施設と、全体の約4分の1、1726人の子供たちが行っている。北海道は沖縄県に次いでむし歯全国ワースト2位。天国の白井さんに笑われないうようにしなければならぬ。



フッ素洗口方法や効果を説明する白井さん

